

HOPES

ホープス セカンド

2nd

7年前の原発事故後、被災地の状況を案じた田中さんは自ら長泥地区に入りました。「鳴原区長とは、同志というか友達というか、それからずっと付き合いが続いています」。

放射線の医学等の利用の研究に携わってきた田中さん。旧日本原子力研究所の副理事長や、日本原子力学会の会長も務めました。リタイアして1年3か月後の大震災では、住まいのある茨城県ひたちなか

移り住んだこの村を拠点に

田中 俊一さん（上飯樋）



福島市出身の工学博士。平成24年9月から29年9月まで原子力規制委員会の初代委員長を務め、退任後、村に住所を移しました。2月1日付で、飯舘村復興アドバイザーの委嘱を受けていただきました。



原子力規制委員会の前委員長である田中さん（左から2人目）。交代に伴う更田豊志委員長（同3人目）の関係自治体への訪問に同行しました。初日、12月14日には村を訪れ、菅野村長らと会談しました。

市で被災。その中で原発事故でした。3月末には、専門家16人の連名で「福島原発事故についての緊急提言」を発表。田中さんは、当初から県や各市町村への協力を惜しみませんでした。

それから7年。移住後も早速、講演や助言の依頼が後を絶ちませんが、「個人の相談にも応えていきたいと考えています」「それがやりたくて、福島に戻って来たのです。村を拠点に出掛けて行きます」。

さらには「村の教育にも協力したい」と言います。「子ども達には、生きる力を教えたい。知識じゃなくて、知恵をね」。新しい村づくり、自身の知見とネットワークを生かしたいと考えているのです。「いつでも協力すると言っている友人・知人がいます。歴史や農学、学者の話もきくと面白いですよ。できれば子ども達と、実習などしてみたいですね。私なりにここで夢を実現したい。あわてず、じつくりとね」。

〈編集後記〉

●今年のお正月、イイタネちゃん宛にかわいいイラストや温かなメッセージ付のたくさんさんの年賀状が届きました。送り主には、北海道、東京、熊本などにお住まいの方も。遠い町から応援する声が届くことは、本当にうれしいことです。今年も道の駅や村イベントにたくさん登場してくれる（はず！）。イイタネちゃんを一緒に育てていきましょう。飯舘村、イイタネちゃんを通して、今年もたくさんさんの笑顔が生まれてくれることを願っているタネ（木幡）

●いいたてホームの軒先に、長いつらが並びました。子どもの頃、つらは特別な遊び道具だったなあ。空想をふくらませて、宝物のようにも扱いました。このつらら、あの頃の私が見たら、目を輝かせて「取ってもいいですか」って行つたんだろうなあ。雪の中にいるのも好きで、綿雪、粉雪、牡丹雪…飽きずに眺めたものでした。氷も雪も友達だったのに。朝カーテンを開けた途端に青ざめる大人になってしまいました。（星）



飯舘村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。